赤ちゃん動作法による育ち支援
－乳幼児健診や育児支援場面での活用－

人間科学部
臨床心理学科
准教授
藤吉 晴美

研究シーズの紹介

ひとのこころを支援する活動と聞いて、すぐに思いつくのは、カウンセリング場面ではないでしょうか。困っているひとが言葉でこころの悩みを語っていきます。また言語がまだ十分に使えない子ども達については、遊びを通してこころの問題を表現させ、問題解決を支援していく方法があります。つまり、こころの支援の対象は、国内外の研究をみても幼児期以降となっており、乳児期は、こころの支援の対象になっていません。

しかし赤ちゃんにも、こころの悩みがあるのではないでしょうか。

乳幼児健診にくる赤ちゃんの中には、例えばおもちゃに手を伸ばして遊べる月齢なのに手を出さず、じっとして動き出さない子がいます。これを心理職の立場から見た時、手の使い方がわからないのではなく、こころが活性化していないのではないかと読み解きます。

このように、からだの動きとこころの問題を関連づけてとらえる方法を、臨床動作法といいます。

私は臨床動作法の知見を用いて赤ちゃんのこころの問題をとらえ、できる限り早期から支援していこうという目的で研究をしています。

Point 赤ちゃん動作法

- 赤ちゃんのこころの問題をとらえることが可能です。
- 赤ちゃん動作法という心理支援法を用いて、赤ちゃんのこころに支援を行い、発達や適応を支援することができます。

9か月の赤ちゃんです。
おもちゃに手を伸ばそうとしません。
こころの元気をあと少し必要としている状態のようです。

赤ちゃん動作法をしていくと、
赤ちゃんの目力が増します。
こころが活性化していきます。

赤ちゃん動作法の後の様子です。
前向きになり、おもちゃに手を伸ばして遊んでいます。このようにこころの活性化を支援していきます。

期待される活用シーン

●赤ちゃんは，こころに問題なんか抱えてないよね。あったとして訴えるすべがない・・・。	赤ちゃんだってこころの問題はあります。「動作」からこころの問題を読み解くことができます。	乳児家庭全戸訪問、乳幼児健診、保育所などで、こころの問題を早期にキャッチアップ
●赤ちゃんへの心理支援はできないので、気になる子がいても経過観察するほかはないよね。	赤ちゃんの動作に現れたこころの問題を赤ちゃん動作法によってより良い方向へ支援していきます。	赤ちゃんのこころの問題への早期支援は、赤ちゃんの発達・適応の促進・改善

その他の研究テーマ

・臨床動作法の援助効果に関する研究